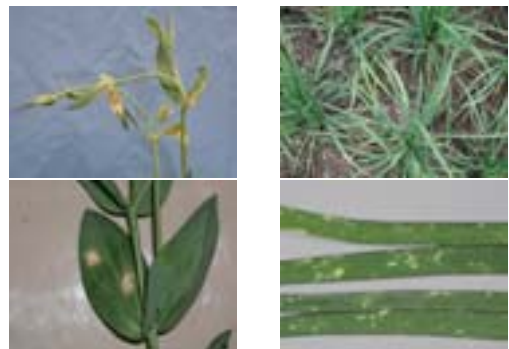


■高知県におけるアイリスイエロースポットウイルス（IYSV）の発生

高知県のニラとトルコギキョウでは、以前から葉にえそ斑点やえそ輪紋を生じる障害が発生し、問題となっていました。これらの障害発生株について遺伝子診断を実施した結果、アイリスイエロースポットウイルス（IYSV）の感染による病害であることが明らかになりました。その後、県内のネギからも IYSV が検出され、すでに本ウイルスが県内に蔓延していることがわかりました。IYSV はオランダのダッチアイリスで発見されたウイルスで、ヨーロッパや南アメリカに分布し、最近になってわが国に侵入したと考えられています。日本ではこれまで、アルストロメリア、タマネギ、トルコギキョウ、ニンニク、アマリリス、パルビネ、クンシラン、タネツケバナで発生が確認されていますが、ニラでの発生は今回が初めてです。トマト黄化えそウイルス（TSWV）やメロン黄化えそウイルス（MYSV）などと同じくトスボウイルスの一種で、アザミウマ伝搬性です。しかし、本ウイルスを媒介することが確認されているのはネギアザミウマだけで、TSWV の強力な媒介虫であるミカンキイロアザミウマでは媒介されません。また、TSWV が多種類の植物に感染するのに対して、IYSV が感染する植物の範囲は比較的狭く、上記の自然感染植物以外では海外でリーキから検出されているほか、接種によってハウレンソウやタバコの野生種など、ごく限られた植物に感染する

ことが確認されているだけです。タマネギでは種子伝染しないことが証明されており、土壌伝染や接触伝染の可能性も低いと考えられています。したがって、防除はネギアザミウマの密度を下げることで伝染源となる病植物の抜き取り、および圃場内外の除草が主体となりますが、このウイルスによる病害については、まだよくわかっていない点もあります。現在、より効果的な防除対策を確立するため、高知県で発生した IYSV と国内ですでに見つかっている IYSV との性質の比較や簡易診断に利用できる抗血清の作製に向けた試験を実施中です。



IYSV によるトルコギキョウ（左）とニラ（右）の病徴

[病理科 竹内繁治]